

録刑 蕙存筆
鱗介生字圖

龍の宮津子



叙

歛形蕙齋如略畫をもく世尔

中法是はみし趣よい言意試画如く

形を悉かた必し攝え又巧密

中法はみし趣よい言意試画如く

中法はみし趣よい言意試画如く

中法はみし趣よい言意試画如く

社中の祭日と乞得題を需むしとら也
此類の書画帖先著者如きありて
何ら好むと伎形状而こりて市中法
魚肆不見る所也今其意子精神を
もとくまに十書を滑稽乃淵小躍
らせ又諧語の浪子系を礼ハ故多
純簡く朝をむ勢ハ見え半を

よく龍乃空津子と云し

其の侍侍なる系

東武神田玉池

一陽井意外述

享和二年壬戌夏

錦車



競い

きり

一番

鯨

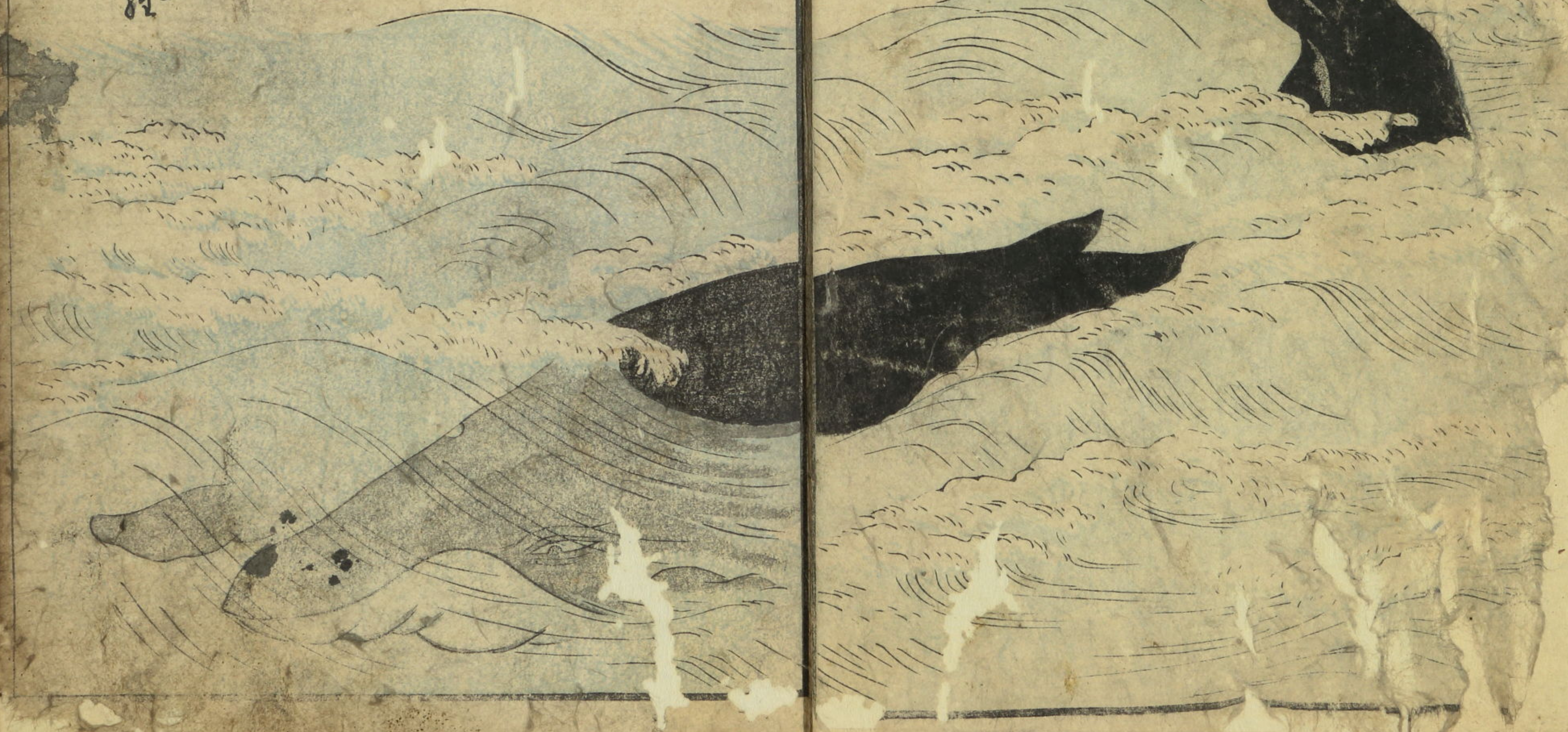
冬央

夕

け

三

大



冠車女

何花乃

お江戸

徳

内々

鯛

亀幸

かいきふ

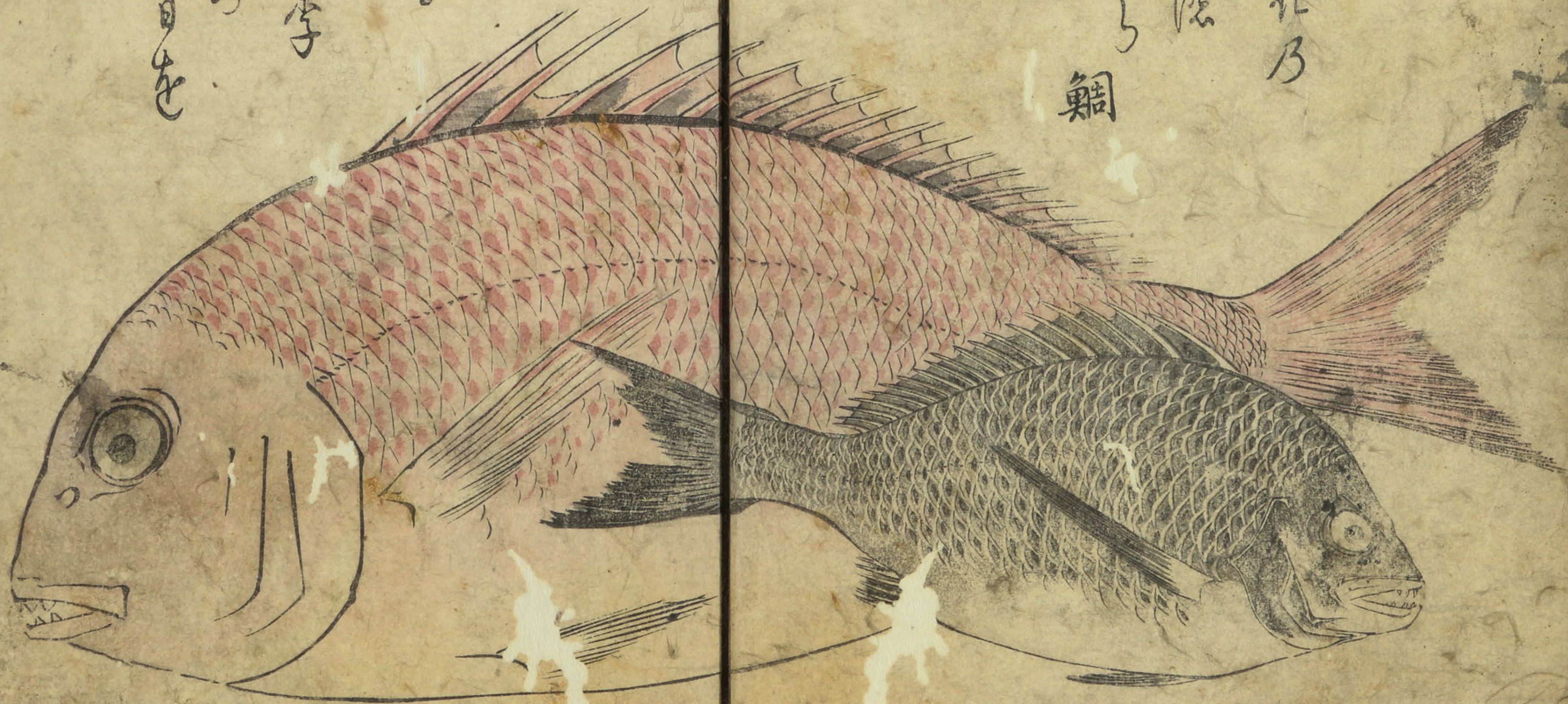
ひき

つと

伊予

鱈の

目を



升來

張翰

手滌

見也

身

之

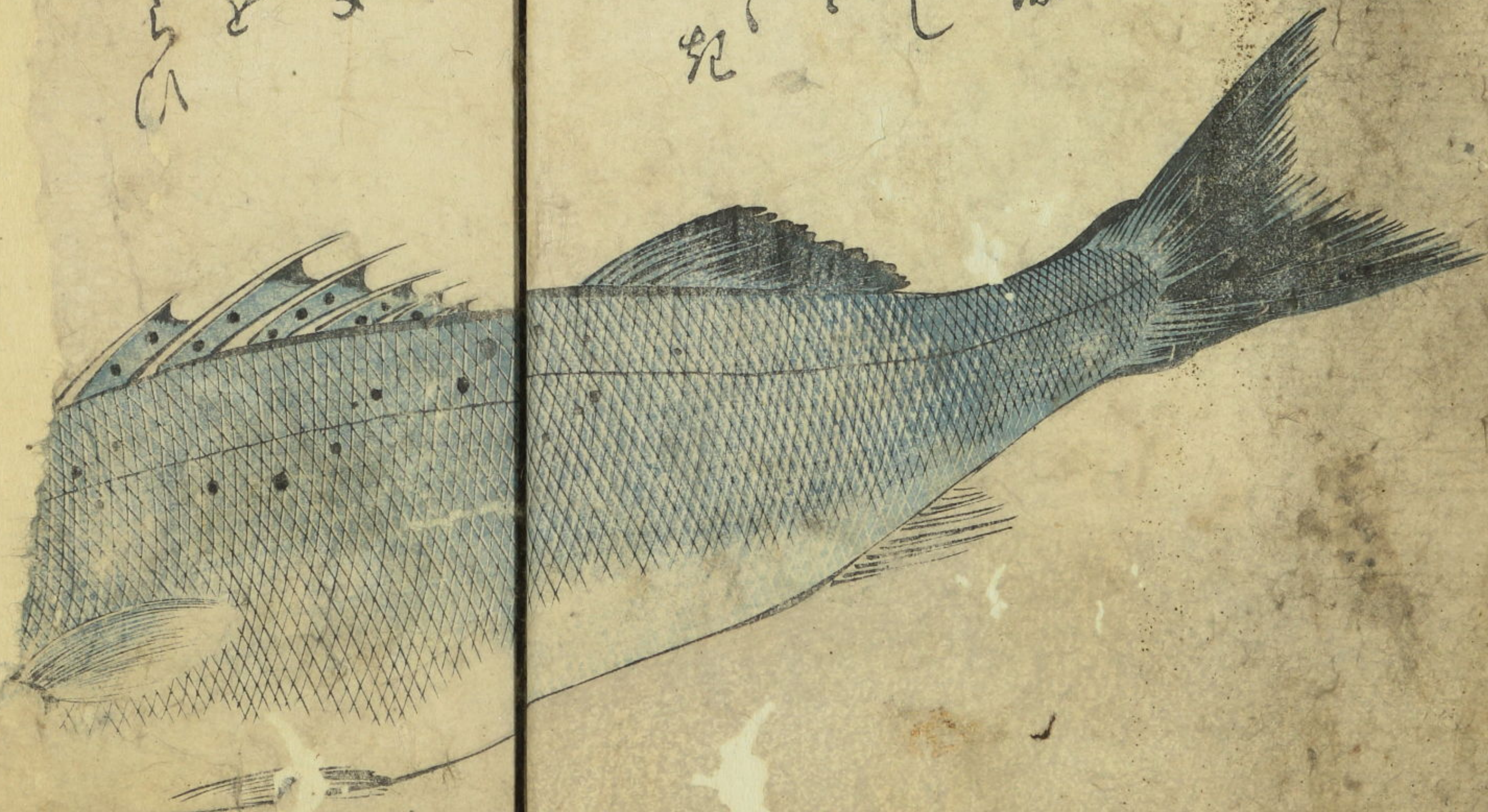
乾

崔媛女

去也

何

乃



見小亦
志ろき
後井
大
河ら
免

源倉徳
素麻呂
まや
うまい
毛
源一
月夜



如水

著了まけぬ

かきと

いしり

船徳

反

其聲

たす萩小

伊勢鯉

まじし

いし

日鏡



梅麩

江戸氣

其和

人

かひと
徳

初
月
味

梅秀女

着船乃

いきなり

多し

り

り



魚長

筋 錦 也

上 月 燈 佛

肥

乃

張

五 桝

くまの

頰 骨

高 兒

寒

水 枯



文榮

伊勢武者花三郎

緋威徳

かさり海老



龜年

海老冷海

只二白助乃

髯

原山

二枚

青葉小魚

あせ

鏡鯛

あせ



素琴女

吸毛能

さあや

鯛乃

見水

琴志女

品

青葉小魚

姫小魚



魚

吳龍

大磯干

好く毛

席毛

手巾

毛

素玉

虎河豚乃

さしや

絵巻

文

と



素降

素降や秋

いぬこし

いぬこし

伊那多

船

江永

満中下徳

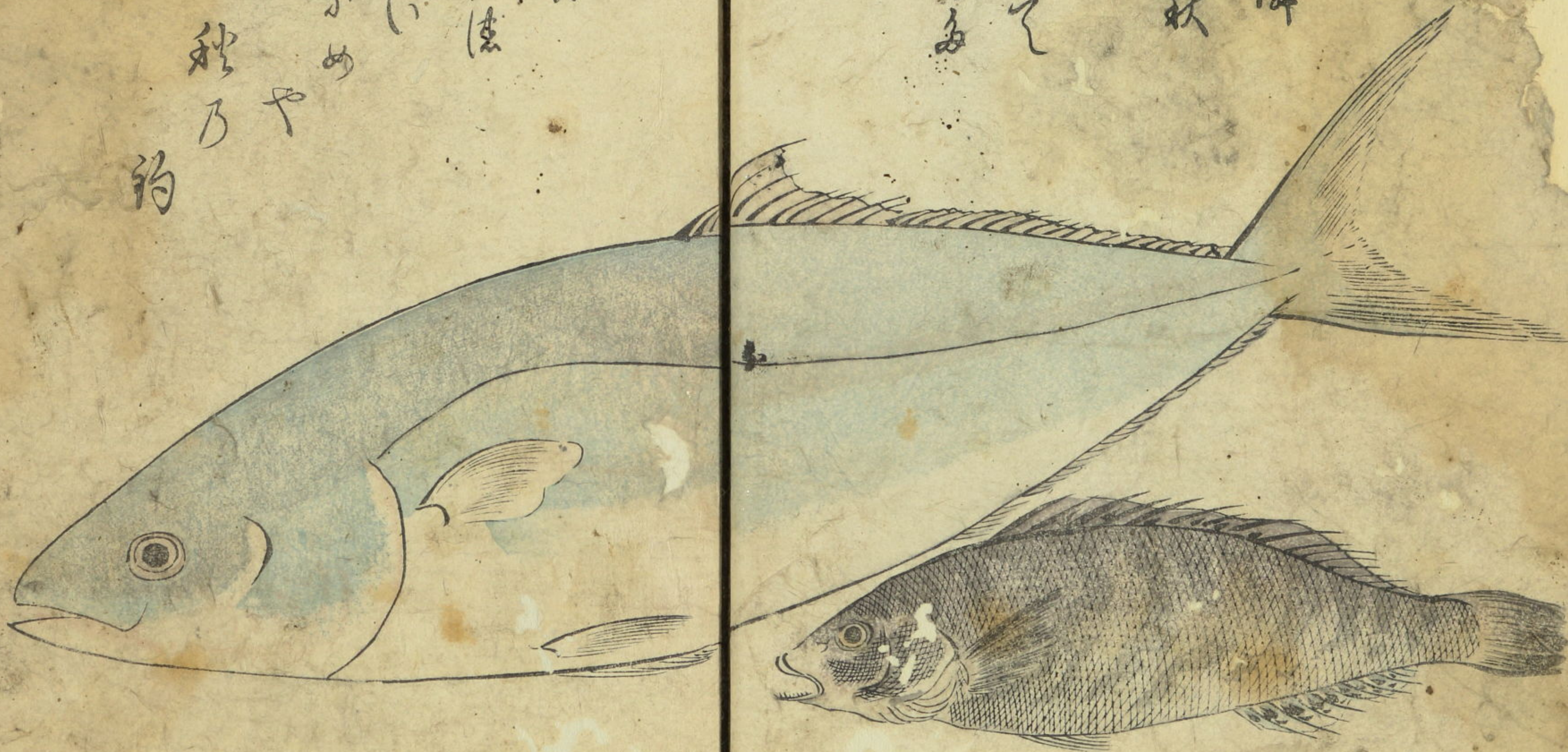
伊あい

かめ

や

秋乃

釣



三ノ目

玉鳴

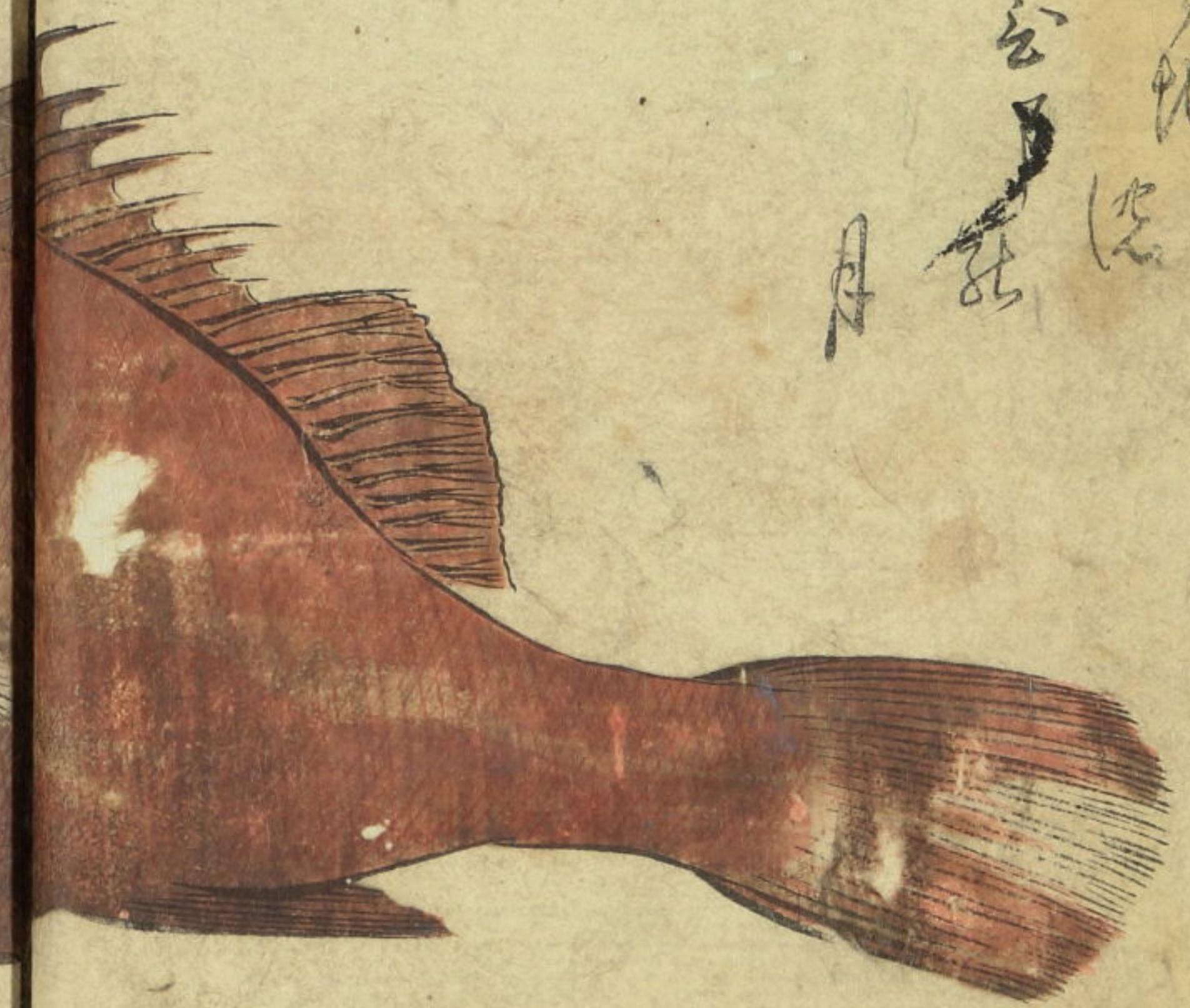
鯨魚

大鯨

毛尻

全

月



額英

釣

直比次

計小

何

子



魚

魚



鯛
櫻
赤
鱈
亦
一
鼎

亦
花乃

霞外

下陰小赤之似

不也

总

酒



沂水

茹揚し章魚や

わう紀も

花ハツ手

杏英

いひあふや

毛のき

かいら徳おもき

きり



煮全翁

芋のい徳傍を丸

はるは蜻乃紫衣

春律

版たこや折ら

雛れまけもの

壺下し這入る

いひ踏や

つとむ



煮漬

岩小地 鱈小や 鱈干地
片巻石

月磨

とろりや

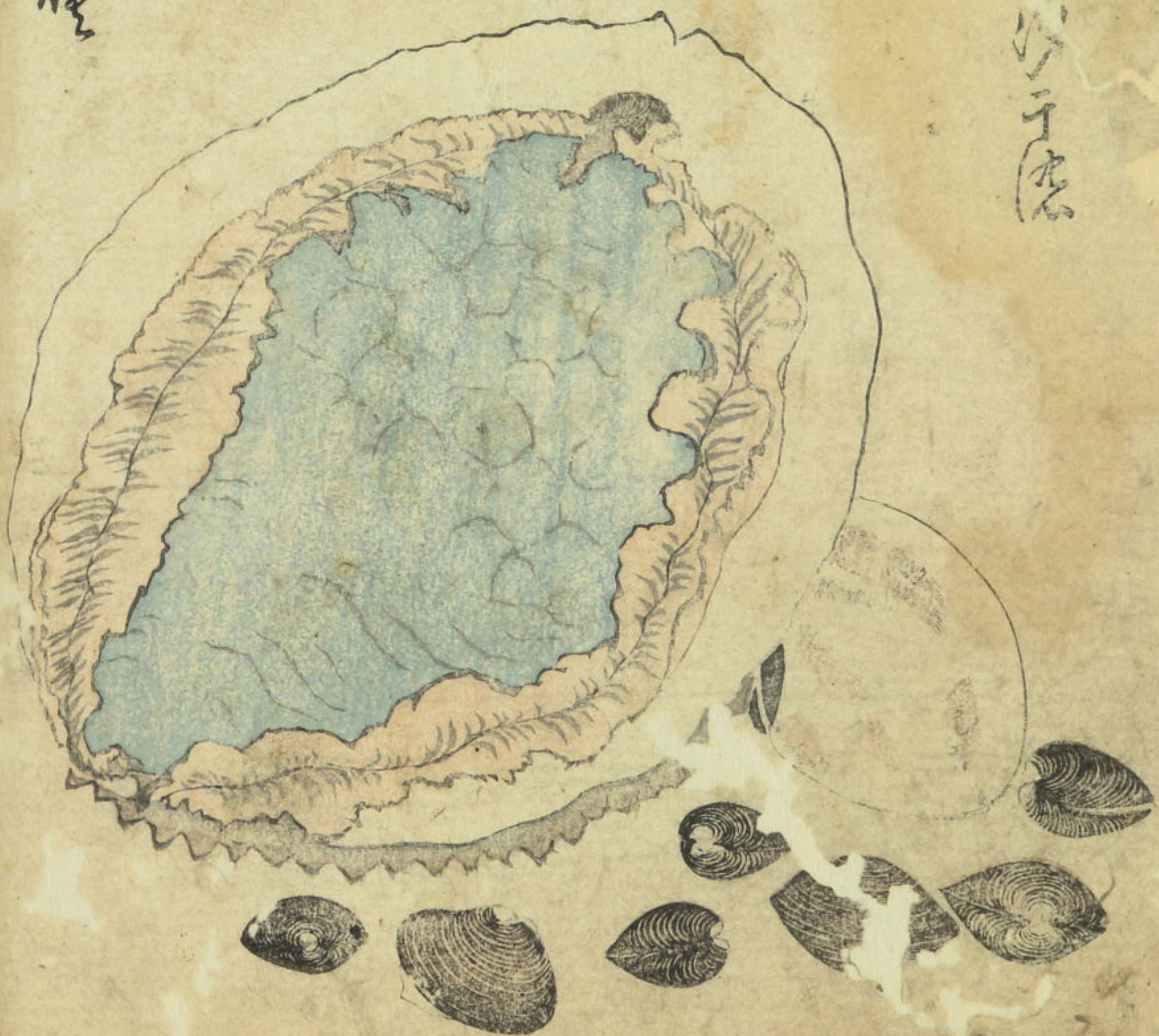
茶乃家く

以干海

千枝尾

掌中の珠や

蜆とふく味味



篤志磨

蛤乃小子や揚々む

以る能不可

醉舎

海底の珠を

蛇を思月夜

雅涼

冬貝や中不地一徳

まろく繪中も



其葉

白魚ナガハシなるハナハシハシ

得磨

鯰ナガハシハシハシヤ

泥中乃

ハシハシハシ

魚磨

水ノハシハシハシ魚

ハシハシハシハシ

蒼鯉

見テハシハシハシハシ

ハシハシハシハシ

素蓮

名ノハシハシハシハシ

ハシハシハシハシ

九幸

永ノハシハシハシハシ

ハシハシハシハシ



貝乃字
益の口紅粉を
候得共

赤辛螺や

沼平流文川

浦子初めく

角ほとの表も

・片は徳吉

藩山



何うぬしや峯入

子ら等の持はひ

素原

多のら乳や鯉徳

中子と鳥帽子

素丘

角かせ

棒出勢



小魚
瀬

小

魚乃 小魚

謂水

魚見笑
大口明
なる



動
鯉乃
か

已禮
釣

寛之
夾暖乃
坊主
鯉

物
素
津鯛

鯛
可
笑

縞鯛や

市小夷

質斗目結素行

袴着や白名
安
仲津多

荒海 瓜

小橋鯛
去の風

八
橋
泉
了



海珀石

清し物

百册

今西の小涼しや
はくは 海波

蕨の酢汁は青葉
しんがりも

魚外

夕とえや鯖乃本めも

夏衣 金馬

夕のちや松魚子

並し

工五法

鮭

煮后

日川魚

鮭乃

岩槻
五計



其氣 蛇と四寸長き魚の体も

舟子

秋空とさきも

青しよと

戸簾

花の鳳巾と

公いり乃群

久虹

志やういひや女徳



子もも瘦こ

可克

芝海老や袴着素

たろも終ひ腰

い



ふくき日

芦辺遠嶼

雀声

以干一々思之原のよ

幸歩折

鳥山

空渡むたの海も

見之川 芦小嶼

書

兼之申 志るやかよ

初以 未のよ 雨

素百



菖と見毛

うま紫の

鳥賊吐豆

志連

吉備前記さくら

操舟

夷逸

夷風やまきめく

鳥賊ふいらん

斗溟

甲ハ鷲と化生夷也

鳥賊の考がう

寿ふ市ちと

重日と柔和申急

似のれ墨好くや

祇辺

鎌倉

英富



鳥

鯛乃上小半の席も
西条大も多造し

稲舟

いし網
八

萬宇

古往一ろや酢を
賣く喰ふ夏料理

松賀

鯛引堂守もかよ
医者との色

星高

鮎らふを漬て大の
一ろとも呼ぶ所

法之痛や大なる法
上子おまの石

岩槻 雀郎



鮎々々乃在所也

知らず者不

呉郷

玉川の鮎

蟹や羊魚の網

分香

取る物と氣味

早川や市の鮎

儂里

負へる海を

玉と 廉富

川と鮎

洗あややかいく

毎八夾ぬら

水子精乃不

石小音有鮎

百我



蟹引く板子料理也
多味汁

素周

石目魚
石目乃釣功者

恭梁

先づ鮒 拍舟

と釣乃 いろは

や筑地川

行燈小

まじ

多味

大の

細土産 下谷 煮行

角衣を煮たり

長海老

史

海老乃名伸
和



見子海老小生俵
との殻見せし

可

赤貝や蛤の乃

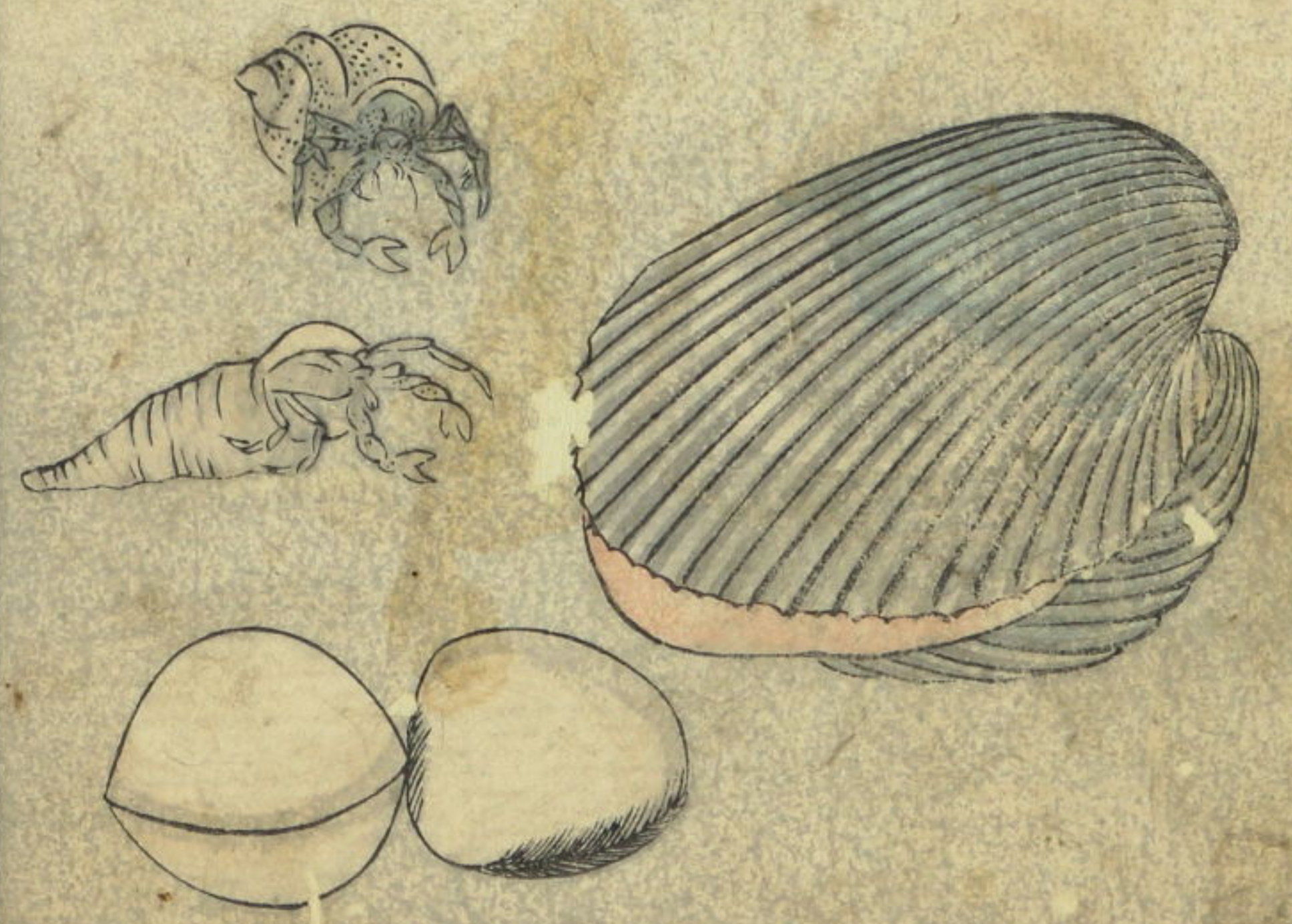
やけもの

史山

家公のやけハ

拾ふ 巨山

寄居出の家



貝拾ふ夾や

素遊

以少記満多戸

身と貝小

斤手葉

云るむ歩居中や

亀山

綿緬小申よせん

條

秋

一何と紫

貝



安武加戸りや此寒中の腹水

従一

善勝魚も囊中(五)分

買し時 素克

鯨や

料理の

時了

初叶魚

東林

親ふらん

かや公徳

養を

花慶

あんまや

人何多むは

乃乃ふり

李時

鯨や茶人も 秋葉

道具好きな毛の



栗堂

子と勢

長子也

三海

也

他乃

半くら

好孫

山

寛麗

万年依種

多く時也

之

龜





其
林
子

川
柳

三
好
子

醒
見
氣

亀
文



海魚

中の魚は海の小魚多し
つら海はぬるや
九井
九簾

湖魚

魚乃各小冷し
魚何く
得器
立志

江魚

夷江と
江乃魚小
古梁
白英

川魚

細く好
免けり
得友
一徑

池魚

十千の池魚や
みより
素外
規外

龍宮城

見よ
素外

養濟菜



享和二年壬戌初秋

(西歷一八〇二年)

割

春風堂野代柵湖刀

日本橋室町二丁目

東都書林

須原屋市兵衛板

